

校長室より

第98号

「天空高き」



平成29年7月7日

人間は考える葦である—第1校舎外装塗装改修工事—

第一校舎は昭和38年に竣工しました。今から54年前です。高水学園の敷地内では一番古い校舎になります。しかも、現在の耐震基準を満たしていますから驚きです。しかし、塗装に関しては既に1回していますから、今回の工事は2回目の化粧直しということになります。

右の写真のように校舎全体の足場が組み終わり、黒っぽいスクリーンで覆われています。

現在、コンクリート壁の浮きや剥離を調べるために、打音検査が行われています。校舎内を巡回していると金属製のバチのようなもので、「コツコツ」と叩いている音が聞こえてきます。この音はあまり気になりませんが、電動ドリルでコンクリートに穴を開ける作業は「グワーン」と高い音を出すので、さすがに生徒達も先生方も耳障りで授業の妨げになっているようです。作業員の方々は時間帯を決め、できるだけ授業の妨げにならないように配慮されていると思いますが、この金属音は思考を中断させてしまいます。巡回中に何度かこの「グワーン」という音が聞こえてきたときに、「人間は考える葦(あし)である」という言葉がふと脳裏をかすめました。

「人間は考える葦である」という言葉は、フランスの17世紀の思想家・数学者であった、ブлез・パスカルの手稿にあった言葉の翻訳です。

その言葉の意味するところは、「人間は考える葦である」＝「人間は自然の中で最も弱い、一本の葦のように物理的には弱い存在だけれども、考えることができるという、かけがえのない能力を持っている」です。

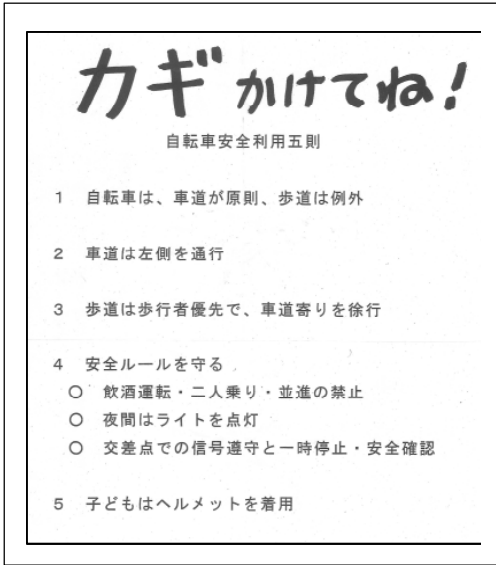
周りを見渡せば道行く人々、バスや電車の中でも多くの人々がスマホやケータイの画面に釘付けです。SNSによって、情報が素早く、大量に、そして簡単に得られるようになりました。しかし、その反面、自分で物事を分析して考える力が落ちているように思います。高度情報化社会だからこそ、自分で考える習慣を身に付けることが大事ではないかと思えます。



進歩とは変わること。変わることが進歩である。

野村克也（元プロ野球選手、監督）

自転車鍵かけ運動—本校の自転車鍵かけの結果—



6月15日に、岩国警察署生活安全課の方々により、「自転車の鍵かけ」運動の声掛けが行われました。その時に、自転車を利用する生徒に左のようなビラも配布されました。

自転車は身近な乗り物ですが、自転車が関連する交通事故は全事故の約2割を占めています。道路交通法上では「軽車両」に区分されています。原則は車道走行ですが、「自転車通行可」の道路標識または「普通自転車通行指定部分」の道路標識がある歩道を通るときは通行が許可されています。また、安全のためやむを得ない場合も、歩道を通行することが許可されています。

自転車に乗るときは、ルールを守り、安全な運転を心がけてください。そしてお互いに思いやりの心で、走行してください。自転車保険も必ず加入してください。

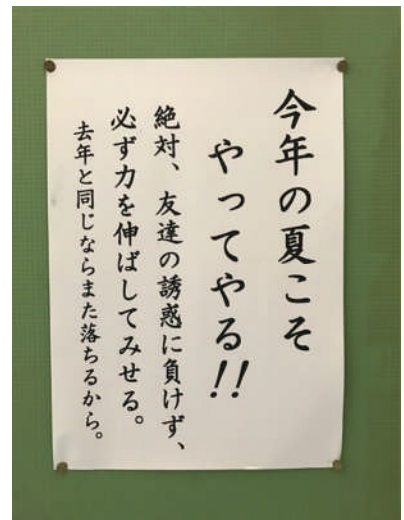
その後、関係者の方々が、自転車の鍵かけ点検をされました。付属中14台中、施錠なしが4台で、施錠率は77.8%。高校314台中、施錠なしが63台で、施錠率は79.9%でした。

学校内ですから鍵を掛けなくても安全な所でなければなりません、大変残念なことに、過去に鍵をかけていない自転車が盗難にあったことがありました。常日頃から自転車から離れるときには、鍵を掛ける、そして所定の場所にきちんと置く、という習慣を身に付けておくことが大事です。

生き抜く力—生徒会から—

生徒会から「授業の質の向上」「ICTの積極的な活用」についての意見と要望を受けました。

現代社会は、高度情報化通信社会を迎えています。IoT時代の到来やAI（人工知能）の発達、仕事のあり方だけでなく、家庭生活においても大きな変化をもたらすでしょう。そのような変化の激しい社会で、皆さんは、「将来、社会に出てひとり一人が自立した生きる力」を身に付ける必要があります。そのために本校では、「先生が教える」授業だけでなく、「生徒が主体的に学ぶ」授業を通して、皆さんひとり一人が知識や技能を身に付け、さらに思考力・表現力・判断力



などの活用する力を向上させて、この21世紀の社会を、主体的に多様な仲間と協働して事を為すことができるよう、先生方が「授業の質の向上」と「ICTの積極的な活用」に取り組んでいます。

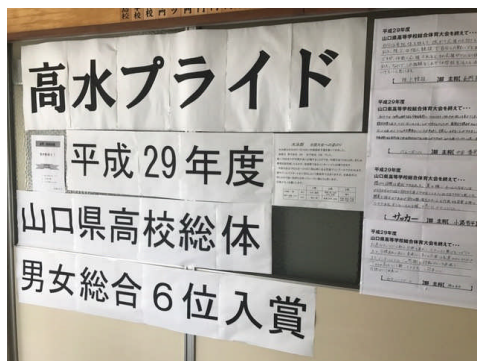
生徒の皆さん、毎日の授業で、ホームルームで、いろいろな学校行事でそして生徒会活動や部活動で、同級生と先輩や後輩と、時にはぶつかり、幾度も挫折や失敗を重ねるかもしれませんが、全力でチャレンジして下さい。若い時の挫折や失敗は自他ともに許される時間的余裕があります。肝要なのは挫折や失敗の原因を冷静に分析し、反省することです。孔子の論語に「過ちて改むるに憚（はばか）ること勿（なか）れ」（過ちを犯してしまったら、ためらわずにすぐ悔い改めよ）、「過ちて改めざる是を過ちと謂（い）う」（過ちはだれでも犯すが、本当の過ちは、過ちと知っていながら悔い改めないことである）とあります。

皆さんはチャレンジすることでチェンジ、変わることができます。変わることは皆さんにとって成長であり進歩でもあります。

高水フライドー最大の障害は自分自身の中にあるー

10代の活躍がめざましい。将棋では史上最年少でプロになった14歳の藤井聡太四段がデビューから29連勝の新記録を樹立。卓球では13歳の張本智和選手が世界選手権男子シングルスで準々決勝に進出し、17歳の平野美宇選手がアジア選手権で、ランキング1、2、5位の中国選手に3連勝して女王に輝きました。競泳では16歳の池江璃花子選手が、世界選手権代表選考会を兼ねた日本選手権で、女子選手としては初めてとなる五冠を達成しました。サッカーに目を転じると、FC東京に所属する15歳の久保建英選手が、J3の試合でJリーグ最年少ゴールを決め、5月にはJ1で公式戦デビューを果たしました。陸上の世界選手権代表選考会を兼ねた日本選手権で、男子100m決勝は18歳のサニブラウン・ハキーム選手が追い風0.6mで10秒05の大会タイ記録で初優勝し、代表入りを決めました。他の競技でも10代の選手がどんどん進出しています。

10代の選手がなぜこれほど活躍できるのでしょうか。まず、彼らの目指す視線が、スポーツの世界では日本にあるのではなく世界に、将棋界ではトップの名人や竜王に焦点を合わせて日々トレーニングに励んでいるということだと思います。そして、指導技術の向上や効果的で科学的なトレーニング方法の導入等があると思いますが、一番は本人の



たゆまぬ努力の結果だと思えます。彼らは、常に考えながら、テーマ（課題）をもって練習や試合に取り組む習慣を身に付けているのだらうと思えます。練習でも試合でも最大の障害は自分自身の中にあります。彼らは様々な問題や課題、障壁に正面から向き合いながら、最後には自分自身でそれを乗り越えることができるからこそ、結果として勝利を手にすることができたのではないのでしょうか。

ところで、平成 29 年度全国高等学校総合体育大会、インターハイは 7 月下旬～8 月上旬にかけて南東北 3 県（山形・宮城・福島県）で開催されます。

6 月に「高水プライド」を掲げ、本校から 12 の運動クラブが全国を目指してチャレンジしました。そして、団体では女子ハンドボール部が、個人で柔道部・空手道部・陸上部が、そしてまだ中国大会予選が終わってないので未定ですが、たぶん水泳部が出場すると思います。放送部もNHK全国高校放送コンテスト「ラジオドキュメント」部門に出場します。

3 年生にとっては高校生活最後の大会の場になります。勝利を目指して 3 年間日々精進してきました。これまで幾度となく苦しいこと、泣きたくなること、そして悔しい思いをしてきたことが多々あったでしょう。しかし、決してそれから逃げ出すことなく、真摯に向かい合ってきたからこそ、全国という晴れの舞台に立つことができたのです。

「高水プライド」。チームを信じ、仲間を信じ、監督・コーチを信じ、そして自分自身を信じ、正々堂々と胸を張って闘って来てください。

24 節気

【小暑】 しょうしょ：7 月 7 日頃

だんだん暑さが増していくという意味で、梅雨明けも近くなり、湿っぽさの中にも夏の熱気が感じられるようになります。海や山に出かけるのにもいい時期です。また、小暑と大暑を合わせたおよそ 1 か月を「暑中」といい、「暑中見舞い」を出す期間とされています。

【大暑】 たいしょ：7 月 23 日頃

夏の暑さが本格的になるという意味ですが、子どもたちは夏休みに入ってわくわく。農家にとっては田の草取り、害虫駆除など暑い中での農作業が続く大変な時期です。また、土用の丑の日が近く、夏バテ防止にうなぎを食べたりする頃です。

「暮らし歳時記」より

